

本画の中心

7

坂上四郎

















さいごに
ふたり
二人に
きくが

どうしても
戦わねば
ならぬのか



一度は
戦わねばならぬ
二人だと
思っておった

しかし
この果し合いは
おだやかではない
命をかけての戦いは
ゆるされぬ!!



!!
それでよい

飯沼さんは
試合の結果を
見とどけて
くだされば……



わしの気もちを
くんで 意を
ひるがえす気には
なれぬか

わしは 自分の
命を投げだしても
とめるつもりで
このことは
だれにも
いつておらぬ





ならば この
いぬまこうみん
飯沼恒民

たしかに
見とどけよう



